

2012年度立命館大学校友会
東日本大震災復興支援事業 東北応援ツアーレポート

「現地を訪問して思うこと」(C福島県スパリゾートハワイアンズコース参加)

1981年(昭和56年)I部法学部卒 小川 治彦

「何でこんな事が起こるの。言葉を失う・・・」現地に行って、映像で見ていたのは全く違う惨状を見てまずそう思った。私は貝になってしまった。阪神淡路大震災を経験し、現地支援にもボランティアで何回も行った。友人の母親も亡くなった。私が生きている間にはこれよりひどい災害は絶対起こらないと信じていた。だから、頑張って支援に行った。しかし、自然はそう甘くはなかった。畏敬の念さえ感じてしまう。私たちは、生きている限り、その自然と共存していかななくてはならない。ハワイアンズの支配人の話も示唆に富んでいた。経済活動も大事だが、最後はやっぱり「心」だと思う。霞を食って生きていく訳にはいかないが、心が豊かになり未来への展望が見えてくれば、人はどんな困難に遭遇しても、何とか生きて行けると思う。今回の東日本大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りすると共に、被災された方々の一刻も早い復興を心より応援して行きたい。そして、日本がひとつになって「いのちのバトン」を息子や娘に手渡して行きたい。